

新春のお喜びを申し上げます

本年もより一層のご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます

**病診連携における専門医への紹介件数が  
400件を超えました。**

平成21年7月からスタートした熊本市CKD対策。病診連携医の先生方のご協力の下、12月末の実績は438件のFAX報告があります。今後もお手数ですが、熊本市へのFAX報告もお願いいたします。

**CKD啓発イベント2010を実施しました**

平成22年11月21日(日)に、熊本市動植物園にて「CKD啓発キャンペーン2010」を実施しました。

今回は、CKD授業等による啓発・健康相談・尿チェックキットの配布、尿検査を行いました。また、今回のイベントでは、子どもに大人気の仮面ライダー電王のキャラクターショーも取り入れ、ラジオ等で活躍されているタレントの、松崎ひろゆきさん・塚原まきこさんにMCを務めていただきました。当日は天候にも恵まれ、入園者数は6,789人と普段の2倍だったようで、CKDイベントにも多くの市民が参加されました。病診連携医の先生方におかれましては、イベントのPRポスター掲示等のご協力ありがとうございました。今回も尿検査を行い、117人を検査。内、尿蛋白±~3+は18名と、約15.4%の陽性率でした。今回の検査結果で、異常がみられた方につきましては、病診連携医の先生方を紹介させていただいております。

当日ご協力頂きました、市民病院 宮中先生、協和発酵キリン、シーメンズヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社、第一三共株式会社、ファイザー製薬株式会社の皆様(50音順)、ありがとうございました。

**CKD病診連携医ステッカーの  
表示をお願いいたします。**

先般、病診連携医ステッカーを送付したところですが、市政だより等で啓発を始めております。まだ貼付されていないところは、貴院の目立つところに貼付して頂きますよう宜しくお願い申し上げます。ステッカーが届いていない、又は紛失された場合は、お手数をお掛けいたしますが、熊本市健康づくり推進室までご連絡頂きますようよろしくお願いいたします。

第5号 発行日 2011年1月吉日



**今回の主なニュース**

- 病診連携実績
- CKD啓発キャンペーン2010  
仮面ライダー電王がやってきた!
- CKD病診連携ステッカー  
ステッカー表示をお願いします
- 特集：腎臓専門医に聞きました  
CKD病診連携事例を紹介します
- CKD病診連携アンケート(中間報告)



【仮面ライダー電王 CKDクイズ】



ステッカー



【ステッカー表示例：病院入り口】

## CKD 病診連携事例を紹介します

～腎臓専門医「じんぞう先生」に聞きました～

今回のじんぞう先生は、**国立病院機構熊本医療センター腎臓内科医長の富田正郎先生**です。富田先生からは、病診連携の成果等を事例を通してご報告いただきました。

あけましておめでとうございます。

国立病院機構熊本医療センター腎臓内科医の富田でございます。先生方にはご多忙の中「熊本市CKD病診連携」のご紹介をいただきありがとうございます。この場を借りて深く御礼申し上げます。これからも熊本市CKD病診連携をよろしくお願い申し上げます。



先生方の御協力のお陰様を持ちまして、透析回避に向けた成果が少しずつではありますが出始めていると実感しております。昨年は例えば「痛風腎臓」として加療されておられた50歳代の男性に腎生検でIgA腎症が見つかり、扁桃腺摘出手術およびステロイドパルス治療にて完全寛解に至り、将来の透析患者を1名減らすことに成功しました。

また「透析回避」とは直接関係ないのですが、熊本市CKD病診連携による紹介患者様から胃癌2例、大腸ポリープ2例、大腸癌1例を見つけることができ、全例治癒的切除を受けました。・・・タネを明かしますと、「eGFRが(若干)Lo(低値)を呈していて食欲不振が続く症例がCKDによる食欲不振ではないか？」や「eGFRが(若干)Lo(低値)を呈していて急に貧血が進行した症例が腎性貧血ではないか？」というご紹介をたくさん頂戴するからであります。いくらeGFRが異常値を呈したからといって、血清Cr値が1.5mg/dl程度の方が、尿毒症性食欲不振や、腎性貧血に陥るはずもなく、原因精査のため胃カメラや大腸カメラを消化器内科に依頼することになり、その結果、結構な確率で潰瘍やmalignancyが見つかることになるわけです。なんととっても国民死因の第一位はガンですから。もっとも本来ガンで亡くなるはずの人を助けると、将来の透析患者を5名増やすことになる・・・という皮肉な事は考えないようにし、なにさま、患者さん方や、先生方のお役に立てれば幸いですので、どうぞ、どんどんご紹介ください。

さて、昨年のCKD対策を振り返ってみますと御紹介で一番多かったのは高齢者の高血圧性良性腎硬化症でございました。尿蛋白はほとんど出しておらず腎萎縮に陥っている、いわゆる老化腎臓、つまり腎機能の正常な老化現象を呈する患者さん達であります。

これらの方々現在の過去5年から10年分の血清Cr値を当方に教えていただくと推定透析開始年齢が予測できます。腎機能悪化の進行が緩徐で、推定透析開始年齢が130歳とか140歳である方々におかれましては、治療介入は一切不要であります。今まで

どおり、なんの心配もなく暮らしていけば、透析になるより先に老衰か、ほかの病気で他界されるからであります。このような方々に下手にCKD介入すると百害あって一利なし、といったこととなります。たとえばARB製剤を開始したために高カリウム血症から致死的不整脈を誘発したり、低蛋白食や減塩食により、栄養障害やうつ病になったりされるからです。そういえば昨年、蛋白尿も出ておらず、たまたまeGFRが50程度と低値を呈しているだけの健常50歳台男性が、「透析になるかもしれません」とのキーワードの元、2g程度の極端な減塩食、極端な低蛋白食、過度の運動療法、ARBの使用などにより、治療を受ければ受けるほど腎機能がさらに悪化するため、さらに治療を強化され、高度の脱水を呈し、完全にノイローゼの状態で当方を別の伝手を通して紹介されました。結局、すべての治療を止めていただくことで腎機能は正常に戻ったのですが、いまでも透析ノイローゼが続いております。「CKD、CKD」とミソクソー緒に対応することは実に危険なことであると強く実感した次第であります。少なくとも「CKD対策」で新しい病気を作らないようにしなければなりません。

一方、推定透析開始年齢が90歳から100歳程度の方や、eGFRがすでに10をきっている方の専門医へのご紹介はきわめて重要であります。いざ老衰が進行して尿毒症に陥ったときに「透析を受けるのか」「透析までは受けたくない、受けずにあの世に行きたい」のかについて、時間をかけて、家族全員で、真剣に考えていただくことができるからです。

いままでのパターンは、多くの高齢者については、「御本人が、透析までは受けたくないとおっしゃっていますので、当方で見ました」との紹介状つきで、いざ、尿毒症性肺水腫が出現した時点で、有無を言わず緊急で救急病院へ搬送される、というケースがほとんどでありました。こういう御紹介のされ方ですと、手遅れにならないためには一刻を争うことになり、「透析を受けるのがどういうことか」をまったく理解されないままに、緊急回避的に透析を開始されることになってしまい、その後は、苦痛に満ちた透析人生を送ることになってしまっておりました。いくら「やめたい」といっても、日本では止めることはできません。（アメリカでは、御本人の決断による透析中止は相当の数にのぼるそうです。）

今回のCKD対策で、事前に御紹介いただくことが増え、段取りよく、透析用内シャントを作成することができたり、症例によっては透析非導入という選択肢を選ぶことによって苦痛な延命を避けることができる、等の、大変重要な成果が得られ始めております。

「目前にせまった死」について考えるのはつらく、嫌なことではありますが、今や「ガン」ですら告知する時代であります。「目前にせまった透析」に関して避けて通ることは、あとで大変後悔する結果を生みます。少なくともeGFRが10をきっている症例は、顕性尿毒症に陥る前に最低一度は専門医を受診させておくべきと考えます。

どうぞ、今後とも熊本市CKD病診連携にご協力ください。

末尾になってしまいましたが、今年の先生方の益々の御繁栄を祈念申し上げます。



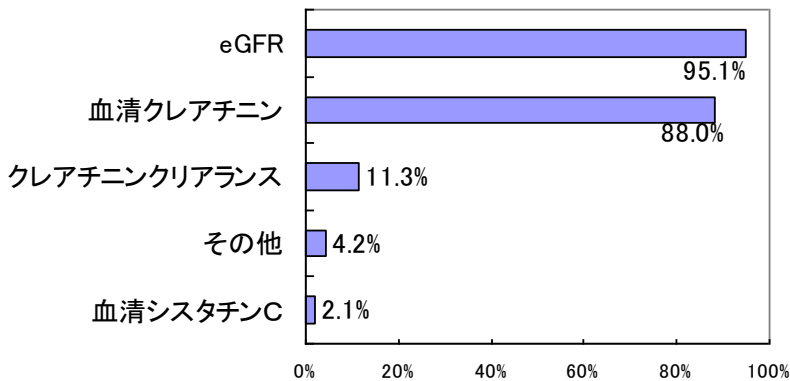
# CKD病診連携医に聞きました

～平成22年度病診連携システムに関するアンケート(中間報告)～

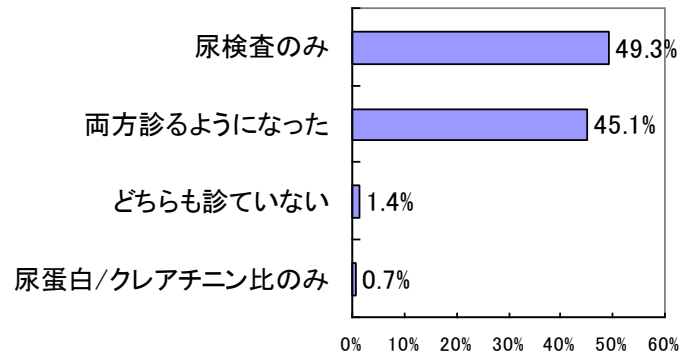
年末のお忙しい中、アンケートにご協力頂きましてありがとうございました。先生方より頂きましたご意見をもとに、更なるCKD対策の推進を図っていきたくて思っております。今後ともご協力よろしくお願いたします。

■ **回答率 52.2% (272名中142名返答)**

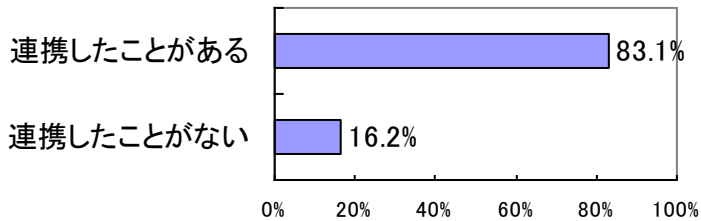
## ■ 日常診療で腎機能を何で評価されていますか(複数可)



## ■ CKD病診連携医に登録して、尿検査や尿蛋白/クレアチニン比を、定期的に診られるようになりましたか



## ■ CKD(慢性腎臓病)患者の診療において、腎臓専門医と連携(腎臓専門医への紹介)したことがありますか



## ■ お寄せいただきました、感想・質問にお答えします

- 専門医の先生方はお返事がかかれるときに(必然的に)大変お時間を掛けています。指導のポイントや指導方針が分かり易く、チェックのみで完了するようなシートがあれば良いと思います  
⇒アドバイスありがとうございます。現在、病診連携プロジェクト会議(専門医及び市医師会担当理事)において、再紹介チェックシートを考案中です。完成次第、活用を開始する予定です。
- 腎臓専門医の病院を教えてください  
⇒後日、「病診連携システム保存版」と併せ、「専門医の病院一覧」も送付する予定にしています。熊本市CKDホームページ(<http://www.city-kumamoto-ckd.hinokuni-net.jp/>)にも掲載しています。
- 自院のコンピューターに導入できるファイルを作ってもらえればありがたいです(window-XP)  
⇒熊本市CKDホームページにExcel形式の「病診連携紹介状(入力用)」を掲載しています。ご活用をお願いたします。



「じんそう先生」に質問募集中(FAX, e-mailにて)  
紹介状が足りない!ステッカーが届いていない!というご連絡もこちらまで。

熊本市健康づくり推進室 健康企画班 TEL096-328-2145 FAX096-351-2183  
Mail アドレス: [kenkouzukuri@city.kumamoto.lg.jp](mailto:kenkouzukuri@city.kumamoto.lg.jp)

制作: 熊本市健康づくり推進室

住所) 熊本市手取本町1番1号 TEL) 096-328-2145 FAX) 096-351-2183

※ホームページもご覧ください <http://www.city-kumamoto-ckd.hinokuni-net.jp/>

健康・福祉・介護>健康・医療>熊本市の健康課題CKD